専攻科コンチェルトの夕べ

2020年11月4日(水)

18:30 開演　(18:00 開場)

洗足学園　前田ホール

主催：洗足学園音楽大学・大学院

⚠新型コロナウィルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
・大声や対面での会話はお控えください。
・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

◇ Program ◇

1. W.A.モーツァルト ／ピアノ協奏曲 第20番 K.466 ニ短調 第1楽章

 Wolfgang Amadeus Mozart（1756-91）//

 Konzert für Klavier und Orchester Nr.20 d-moll K.466 1st.mov.

専攻科 飯村 紗雪

EO. 松下 紗弓(学4) 古賀 美咲(学3) 板橋 美波(学2)

2. W.A.モーツァルト／歌劇《フィガロの結婚》より 自分で自分がわからない

 恋とはどんなにものかしら

 Wolfgang Amadeus Mozart(1756-91) // "Le nozze di Figaro"

 Non so più cosa son, cosa faccio

 Voi che sapate che cosa e amor

専攻科 荒又 恭子

EO. 神長 進之介(学3) 海老原 菜月(学3) 米子 理紗(学2)

3. G.ドニゼッティ／歌劇《ドン パスクワーレ》より

 哀れなエルネスト～誰も知らない遠い地を探して

 Gaetano Donizetti（1797-1848）// "Don Pasquale"

 Povero Ernesto！～Cerchero lontana terra

専攻科 河内山 魁莉

EO. 乗松 夏葉(学4) 三田 侑花(学3) 渡木 優乃(学2)

✿ 休憩 ✿

4. G.ドニゼッティ／歌劇《ランメルモールのルチア》より あたりは静寂に包まれ

 Gaetano Donizetti（1797-1848）// "Lucia di Lammermoor" Regnava nel silenzio

専攻科 芳村 早紀子

EO. 菊地 亜祐(学4) 松瀬 裕香(学3) 入江 優樹(学2)

5. C.H.C.ライネッケ／フルート協奏曲 Op.283 ニ長調 第二楽章

 Carl Heinrich Carsten Reinecke(1824-1910) // Flötenkonzert D-dur Op.283 2nd.mov.

専攻科 井山 優希

EO. 樋口 友美(学3) 加瀬 志桜里(学4) 堀田 真菜(学2)

6. U.ジョルダーノ／歌劇《アンドレア・シェニエ》より

 私の心を打つのは～ある日青空を眺めて

 Umberto Giordano（1867-1948）// "Andrea Chénier"

 Colpito qui m'avete～Un dì all'azzurro spazio

専攻科 白石 渉

EO. 松野 風馬(学4) 内海 菜々美(学2) 田村 明日香(学2)

7. E.セジョルネ／マリンバと弦楽の為の協奏曲 第3楽章

 Emmanuel Sejourne(b.1961) // Concerto for marimba and strings 3rd mov.

専攻科 渡辺 夏来

EO. 神長 進之介(学3) 松野 風馬(学4)

指揮 竹内 聡

◇Program Note◇

1．飯村 紗雪（ピアノ）

この曲はオーストリアの音楽家で、古典派音楽、ウィーン古典派を代表する1人であるヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトによって書かれた作品である。

1756年1月27日、ザルツブルクに生まれたモーツァルトは3歳の時からチェンバロを弾き始め、5歳の時には最初の作曲を行うなど幼少期から音楽の才能を発揮し、「神童」と呼ばれた。

《ピアノ協奏曲　第20番 K.466 ニ短調》はモーツァルトのピアノ協奏曲の中でも高い人気を誇っている。この曲はモーツァルトが初めて手掛けた短調の協奏曲であり、数ある協奏曲の中で2曲しかない短調作品であることも注目されている。華やかさが求められていた当時の協奏曲とは対照的で、暗く不安げな旋律と激しいパッションの表出的な性格を帯びている。作曲のきっかけは、モーツァルトがウィーンで大成功を収めていた時期である1785年2月11日の四旬節の予約演奏会であった。父レオポルトによれば、多忙なモーツァルトはこの作品を前日に完成させ、終楽章を通して弾いてみる余裕さえなかったが、演奏会は大成功だったという。

第1楽章、第3楽章ともにモーツァルト自身によるカデンツァは残っていないが、この協奏曲を演奏したベートーヴェンとブラームスが、モーツァルトらしいカデンツァを書いており、ベートーヴェンのカデンツァは今でもしばしば演奏される。

今回演奏する第1楽章は、協奏的ソナタ形式となっており、カデンツァはベートーヴェンが書いたものを演奏する。冒頭の管弦楽が不気味でまた激しくもあり、悲愴感を感じさせる独奏ピアノの入りが印象的である。

2．荒又 恭子（ソプラノ）

舞台は１８世紀半ばのスペイン・セヴィリア近郊のアルマヴィーヴァ伯爵の館。伯爵の従僕フィガロと伯爵夫人の侍女スザンナの結婚式当日のお話。愛と陰謀が渦巻く「狂おしい一日」が繰り広げられる。

第１幕第５景、スザンナとマルチェリーナが鉢合わせ、しばしの鞘当ての後にスザンナがひとりになるところにケルビーノが登場する。ケルビーノは伯爵に仕える第一小性であり昨日には、バルバリーナと内緒で彼女の家で会っていた事が伯爵に見つかってしまった為に解雇されたので、奥方にとりなしをとスザンナに懇願する。

ケルビーノは思春期真っ只中であり、あらゆる女性に興味と憧れを抱き、特に伯爵夫人を病的なまでに慕っている。そんな彼は伯爵夫人に仕えているスザンナに、朝と夜の着替えの手伝いやピンやリボンを解く役を担っていることを羨ましく思っており、できることであればその役を変わりたいと思っている。

《自分で自分がわからない》場面はスザンナが持っていた伯爵夫人のリボンをケルビーノがスザンナの手から奪うところに始まる。ケルビーノはこのリボンと引換えに自身が紙に描いた譜、恋の唄をスザンナに渡す。

この恋の唄をあの美しい奥様方にスザンナがよんで聞かせてあげてよ、とケルビーノは言う。そして奥様方だけでなくバルナリーナに、マルチェリーナに、お館のあらゆるご婦人にも読んであげて、とケルビーノは願う。

『ぼくは自分でも何をしているのかよく分からない、胸が高鳴っているのは確かに感じていて、女の姿を見ているだけでドキドキする。恋だとか官能の言葉を聞くと胸が振動しおかしくなる。「ぼく、あなたが好きです」って今すぐ言いたくて、でも仕方がないから庭園の中を走りながらひとり、ひとりごとで言うのだ。相手は奥様方やスザンナや、木立や、雲や風だけど、風のやつはぼくの言葉をどこかへ運んでいってしまう。誰も聞いてくれる人がいなければ、ぼくは自分に恋を語ってしまうのだ』と歌うアリアである。

《恋とはどんなものかしら》場面は豪華な寝室にスザンナと伯爵夫人とケルビーノ。伯爵夫人はケルビーノが描いた恋の唄の譜を持っており、スザンナが彼をからかうように、その唄を自身で歌いなさいと促す。奥様方がお望みならば、と恥ずかしく身体も震える中、スザンナがギターで伴奏を弾きケルビーノは歌う。

恋の唄『恋とはどんなものか、ご存知のあなた様方、判断してください。ぼくが心に恋を抱いているのかどうか。ぼくが感じていることをあなた方様にお話しします。ぼくにとって初めてのことで、これが何か分かりません。熱望に満ちた愛情を感じ、それは喜びかと思えば、次の瞬間苦しみとなるのです。身が凍てついたかと思うと、次には心が燃え上がるのを感じるのですが、一瞬のうちにまた身が凍るのです。それでもぼくは幸せを探し求めます。自分でない誰かに。でも誰がそれを手にして、それがどんなものかわからないのです。自ずと溜め息が出て嘆いてしまうのです。胸を高鳴らせ、身体が震えるのです。昼も夜もぼくには安らぎがありません。けれど、こうして悩んでいるのが楽しいのです。恋とはどんなものか、ご存知のあなた様方、判断してください。ぼくが心に恋を抱いているかどうか。』

彼は青春に向かって、あらゆる出来事に向かってぶつかっていくが、当てもなければ知識も経験もなく恋とはどんなものなのかわからない、そしてどんな女にも恋をしてしまう思春期の少年、ケルビーノのアリア２曲である。

3．河内山 魁莉（テノール）

この曲はオペラ「ドン・パスクワーレ」の第二幕の冒頭に歌われるエルネストのアリアである。叔父であるパスクワーレからの縁談を断るエルネストに対し、それなら家から追い出すと言い渡される。

友人であるマラテスタも、それに肩入れしたと思い込み、友人も、恋人のノリーナさえも失ってしまったと嘆く。レチタティーヴォは、家を追い出されたエルネストが自分の置かれた状況を説明する。友人に裏切られたこと、恋人を失ったことに対して怒りさえも覚えている。アリアでは誰も知らない土地で戦士の心を持ち、生きていこうと歌われている。恋人を失っても、心までは変わらないという強い意思が感じられるアリアである。

カヴァレッタでは、その心の強さと、ノリーナからの愛が別の者に移ろうと、自分の気持ちは変わることない、ノリーナが幸せなら自分も幸せだとノリーナへの愛の強さが表れている。

4．芳村 早紀子（ソプラノ）

《ランモルメールのルチア》はガタエーノ・ドニゼッティが1835年に作曲したオペラで、1835年9月にナポリのサン・カルロ劇場で初演された。原作は、スコットランドの作家ウォルター・スコットの小説『ラマムアの花嫁』で、実際にスコットランドで起きた事件を元にしている。台本はサルヴァトーレ・カンマラーノによる。

〈あたりは静寂に包まれ〉第一幕でヒロインのルチアによって歌われるアリアである。ルチアとエドガルドは恋人同士だが、両家は敵対関係にある。ルチアは没落の危機に瀕した家を守るために、アルトゥーロと政略結婚をさせられそうになる。

そんな中、恋人のエドガルドと密会するために、ルチアは侍女アリーサと共に城から抜け出す。ルチアはエルガルドを待ちながら、嫉妬に駆られた男が女を刺し殺して泉に沈めたという昔話を歌い、自分もその運命になるのではないかという恐れと、彼への恋が私の全てだと歌う。

5．井山 優希（フルート）

カール・ライネッケ(1824-1910)はドイツ・ロマン派の作曲家、教育者カール・ライネッケの管弦楽作品集第1集。高名な音楽教育者を父に持ち、7歳で作曲を始め12歳でピアニストとして公開演奏を行うほど早熟だったライネッケは、85歳という長寿を全うする直前まで作曲活動を続け、未出版作品も含めると1000曲以上の作品を書き上げた。

本日演奏する曲はその中から「フルート協奏曲」の第2楽章であり、ドラマチックな展開で多くのフルート奏者に親しまれている作品である。

作曲されたのは亡くなる2年前の1908年、84歳の時最後の協奏曲である。

ロ短調による葬送行進曲風のバスオステナートから始まり全体的に葬送行進曲と、コラールのようなリズムが繰り返されている中で、たった4小節間のレチタティーヴォは大きな役割を果たす。

6．白石 渉（テノール）

ウンベルト・ジョルダーノが作曲、ルイージ・イッリカが台本を執筆。この作品は、アンドレア・シェニエという実在の詩人の話をもとに作られた作品。

舞台は18世紀後半、フランス革命真っただ中のパリ。片田舎にあるコワニー伯爵家に仕えるジェラール。客人として迎えられたシェニエ。両者とも貴族階級に批判的であったが、貴族の令嬢マッダレーナに思いを寄せていた。その後ジェラールは急進派の革命政府にて出世、シェニエは穏健派だったため急進派に追われることに。ジェラールはシェニエに追われていることを伝え、マッダレーナと共に逃げるよう伝える。しかしシェニエは捕まり、マッダレーナのシェニエへの愛に心を打たれたジェラールは、シェニエの弁護を買ってでるがその甲斐もなく、シェニエは死刑を宣告される。最後はマッダレーナも他の女性の死刑囚の身代わりとなり2人揃って死刑台へ向かい幕を閉じる。

この曲は1幕でシェニエが伯爵家のパーティー会場で、貴族を批判し愛を称え、「愛が世界の魂で命である」と訴える曲。この詩はシェニエ自信が書き残したもので、詩的な言い回しと痛烈な貴族批判を持ち、そこにジョルダーノの旋律と相まって大変美しい曲となっている。

7．渡辺 夏来（マリンバ）

エマニュエル・セジョルネ(1961〜)は、フランスのリモージュ出身の世界的マリンバ奏者である。ストラスブール地方音楽院でピアノ、バイオリン、音楽史等のクラシック音楽の礎を築いた後、ジャン・バティン氏に師事。現代的かつ即興的な音楽を学び、以降キーボードパーカッショニスト、マリンビストとしてキャリアをスタートさせる。彼の音楽は、西洋のクラシック音楽とロック、ジャズなどのポップカルチャーの両方からインスパイアされ、リズミックかつロマンティックであると名高い。その多彩な音楽性が、広く聴衆を魅了し続けている。今回演奏するマリンバ協奏曲はセジョルネの作品の中で最も有名といっても過言でない曲である。2006年にリンツ国際マリンバコンクールの課題曲として作曲され、2015年に全2楽章から全3楽章版へと改訂された。非常にロマン的な色合いの濃い作品であり、現代音楽的要素は少ない。

第３楽章はフラメンコの様な音楽から始まり、マリンバが執拗にリズムを刻む。

中間部では弦の刻みに乗って、マリンバが美しくかつロマンティックにメロディを奏でる。

最後はフラメンコに回帰して、かっちりと曲を締めて終わる。マリンバという楽器自体がまだ新しい為にそのオリジナルの作品はすべて、現代音楽に属するがこの曲を通して、マリンバからロマン派の要素を感じて頂けたら幸いである。

◇ Profile ◇

指揮：竹内 聡

東京音楽大学作曲科卒業、同大学大学院修士課程作曲研究領域修了。武生国際音楽祭に招待作曲家として参加し、第５回武生国際作曲賞を受賞する。

指揮者としても活動の場を広げており、『天国と地獄』、『こうもり』、『仮面舞踏会』、『ヘンゼルとグレーテル』、『魔笛』など主にオペラやオペレッタ、またモーツァルトの『レクイエム』、プッチーニの『グローリア・ミサ』などの合唱作品を多数指揮している。近年ではミュージカル『シスター・アクト』や、コンサート『ハイキュー』等の指揮も務め好評を博す。また、サンクトペテルブルク国際指揮マスタークラスの受講生に選ばれファイナルコンサートにおいて『ラ・ボエーム』と『カルメン』を指揮する。また、舞台音楽における作・編曲には定評があり、ミュージカルやコンサート等数多くの作品に携わってきている。主な音楽監督作品として『スコット＆ゼルダ』『ブラック・メリーポピンズ』『一路真輝 35 周年記念コンサート』『The Sparkling Voice II』『ローマの休日』等、その他に編曲として『The Musical Concert at Imperial Theatre』『ファントム（韓国版）』『Espoir』等、また作・編曲として宝塚歌劇団『Ray -星の光線-』『Music Revolution!』『雨に唄えば』等にも関わる。

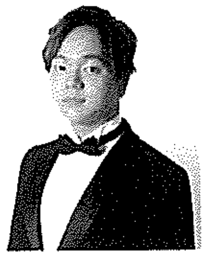
作曲を野田暉行、糀場富美子、西村朗、細川俊夫の各氏に、指揮を汐澤安彦、アレキサンダー・ポリャニチコの各氏に、ピアノを串戸悦子の各氏にそれぞれ師事する。洗足学園音楽大学非常勤講師。

飯村 紗雪　ピアノ

1998年東京都出身。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。10歳で姉の影響でピアノを始める。中学、高校と吹奏楽部に所属しトロンボーンを担当。第55回、第56回東京都高等学校吹奏楽コンクールでは金賞受賞。大学在学中3年次に井上道義の《メモリー・コンクリート》、4年次にはラヴェル作曲の《マ・メール・ロワ》でシルヴァン・カンブルランと共演。現在、洗足学園音楽大学専攻科ピアノコース在学中。ピアノを谷川明氏に師事。

荒又 恭子　ソプラノ

東京都出身。洗足学園音楽大学音楽学部声楽コース卒業。16歳より声楽を始める。これまでに声楽を前原鮎子、吉田伸昭、沢崎恵美の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽専攻科声楽コースに在学中。



河内山 魁莉　テノール

1997年神奈川出身。洗足学園音楽大学声楽コース卒業。声楽を牧野正人氏に師事。

中学2年次に校内合唱コンクールにて学園優勝、中学３年次ではソロを担当。中学、高校と吹奏楽でホルンを担当。中学3年夏のコンクールにて、東関東大会銀賞。高校3年夏のコンクールにて東関東大会銀賞。2013年3月、2016年3月、母校の中学校定期演奏会にて、ライオンキングのキャスト、ザズー、スカー王として出演。

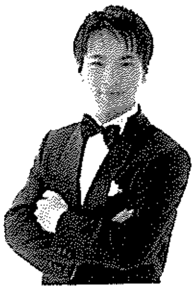
現在、洗足学園音楽大学専攻科声楽コース在籍中。

芳村 早紀子　ソプラノ

12歳よりフルートを、16歳より声楽を始める。八雲学園中学高等学校を卒業。洗足学園音楽大学音楽学部管楽器コースにフルートで入学。大学3年次に声楽科に転科し、同大学声楽コース卒業。フルートを安本恵子、苗代恵理子、酒井秀明、菅井春恵各氏に師事。声楽を保川将一、酒井泰子、斎藤由美子、塩田美奈子の各氏に師事。

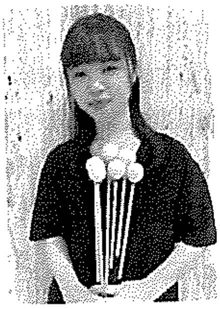
井山 優希　フルート

小学3年生から独学でフルートを始める、中学校入学と同時に吹奏楽部でフルートを担当、その後高校でも吹奏楽部に所属し、フルートを続ける。これまでにフルートを佐藤 大祐、菅井春恵の各氏に師事。



白石 渉　テノール

静岡県沼津市出身。声種はテノール。6歳からピアノを習い始め、中学校吹奏楽部にてホルンを始める。静岡県立沼津西高校芸術科音楽学科にてホルンを専攻し卒業。洗足学園音楽大学声楽コース入学。在学中に2019年度特別選抜演奏者に認定される。多摩美術大学とのコラボレーションオペラ、「魔笛」日本語公演にてタミーノ役を、「コジ・ファン・トゥッテ」にてフェランド役を務める。学内ゼミの日本語公演にて、「魔笛」タミーノ役、「カルメン」ドン・ホセ役を務める。これまでに声楽を牧野正人、江原陽子、各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学専攻科在学中。



渡辺 夏来　マリンバ

埼玉県鶴ヶ島市出身。洗足学園音楽大学打楽器コース卒業。7歳よりピアノ、12歳より吹奏楽部で打楽器を始める。これまでにピアノを希代智子、打楽器及びマリンバを石井喜久子、マリンバを坂口あき、神谷百子の各氏に師事。室内楽を石井喜久子氏に師事。在学中にスチールパン部、pan note paradiseに所属し、ダブルテナーパンとテナーパンを担当。数多くの演奏会に出演する。またアニメ「響けユーフォニアム」のイベントに打楽器奏者として出演する。2xxx年エマニュエル・セジョルネのマスタークラスを受講。第28回日本クラシック音楽コンクール全国大会出場。優秀賞受賞。現在、洗足学園音楽大学専攻科に在学中。

電子オルガン

加瀬 志桜里(学4)　菊地 亜祐(学4)　乗松 夏葉(学4)　松下 紗弓(学4)　松野 風馬(学4)
海老原 菜月(学3)　神長 進之介(学3)　古賀 美咲(学3)　樋口 友美(学3)　松瀬 裕香(学3)　三田 侑花(学3)
板橋 美波(学2)　入江 優樹(学2)　内海 菜々美(学2)　田村 明日香(学2)　堀田 真菜(学2)　米子 理紗(学2)
渡木 優乃(学2)